

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中央卸売市場北部市場水産棟北積	階数	地上1F
建設地	愛知県西春日井郡豊山町大字豊場	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	70人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年11月 予定	評価の実施日	2017年3月15日
敷地面積	3,540 m ²	作成者	相馬 悦史
建築面積	2,475 m ²	確認日	2017年3月15日
延床面積	2,636 m ²	確認者	長谷川 敬二



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算 BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	89%
③上記+②以外の	89%
④上記+	89%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.7**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.4**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.5

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>15.7%</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	15.7%	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0%
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	15.7%				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0%				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				-	-	-	-	-
1.2 遮音				-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境								
2.1 室温制御				-	-	-	-	-
1 室温				-	-	-	-	-
2 外皮性能				-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	-	-	-
2.3 空調方式				-	-	-	-	-
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				2.6	1.00	-	-	2.6
1 昼光率				-	-	-	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				-	-	-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-
1 昼光制御				-	-	-	-	-
3.3 照度				2.0	0.38	-	-	-
3.4 照明制御				3.0	0.63	-	-	-
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-
1 換気量				-	-	-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	-
3 内装計画				-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				3.0	0.52	-	-	3.0
1 耐震性				3.0	0.48	-	-	-
2 免震・制振性能				3.0	1.00	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	1.00	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	-	-	-	-
2.4 信頼性				3.0	0.19	-	-	-
1 空調・換気設備				-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				-	-	-	-	-
3 電気設備	②			3.0	1.00	-	-	-
4 機械・配管支持方法				-	-	-	-	-
5 通信・情報設備				-	-	-	-	-
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり				3.9	0.48	-	-	3.9
1 階高のゆとり			屋内有効高さ5.5m以上	5.0	0.45	-	-	-
2 空間の形状・自由さ				-	-	-	-	-
3.2 荷重のゆとり				-	-	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.0	0.55	-	-	-
1 空調配管の更新性				-	-	-	-	-
2 給排水管の更新性				-	-	-	-	-
3 電気配線の更新性				3.0	1.00	-	-	-
4 通信配線の更新性				-	-	-	-	-
5 設備機器の更新性				-	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保	②			-	-	-	-	-

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
		Q3 室外環境(敷地内)				-	0.40	-	-
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.9	
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=		-	-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用				-	-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化				4.6	0.60	-	-	4.6	
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI=0.78		4.6	1.00	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.40	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.7	
1 水資源保護				3.0	0.15	-	-	3.0	
1.1 節水				-	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	1.00	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.63	-	-	3.8	
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	高炉セメント・基礎・地中梁・土間コンクリート		5.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	再生砕石		3.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	鉄骨造屋根あらわしのため分別が容易		5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.0	0.22	-	-	4.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				4.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤		シーリング材にF☆☆☆☆を採用		4.0	1.00	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		不活性ガス消火剤(移動式粉末消火器)を採用		4.0	1.00	-	-	-	
3 冷媒				-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.5	
1 地球温暖化への配慮				①	ライフサイクルCO2概算値:89%	3.4	0.33	-	3.4
2 地域環境への配慮				1.5	0.33	-	-	1.5	
2.1 大気汚染防止				-	-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				1.0	0.67	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.33	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		敷地内において元より駐車場の必要台数を確保している		4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.8	0.33	-	-	2.8	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自			3.0	0.33	-	-	-	
2 振動	独自			3.0	0.33	-	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				2.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のつららに漏れる光への対策				2.0	1.00	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	-	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

中央卸売市場北部市場水産棟北横込所

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.16	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.14	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:15.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 中央卸売市場北部市場水

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共建築物にふさわしい安全性、耐久性、機能性及び快適性に配慮する。
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップライトにより、自然採光を確保する。
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐久性に優れた土間仕様とする。
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に無し
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・照明器具は省エネに配慮した器具を選定した。
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に無し
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に無し
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RC40、BB、ラス型枠を使用